

1 部会長選任

事務局：(部会長選任規定について説明)

後 藤：事務局の方に案があると思いますので、それでいいかなと思います。

事務局：(部会長を菊池委員、部会長職務代理に笹本委員にお願いしたい。)

全委員：異議なし。

2 議題(1)事業の概要について

事務局：(事業概要について説明)

※ 部会長到着遅れのため、笹本部会長職務代理が議長を勤める。

笹 本：どうもありがとうございました。今、ご説明があった様に、平成28年1月に場所等が確定されて、本年に入ってから選考委員会があり、今後の大きな流れは2枚目に書かれている事も含め、逆に私ども、基幹博物館建設検討委員会展示専門部会はいかに重要であり、なおかつ短い時間であっても方向付けなくてはならない非常に大事な役割だという事がわかりいただけだと思います。まず、今の概要につきましては、本来協議も対象かもしれませんが、まずご質問等ありましたらお願いいたします。

全委員：(意見、質問等なし。)

笹 本：よろしいでしょうか。基本的には非常に短い時間ですが皆さまのお力を借りないと良い博物館はできないものですから、事業の概要をお話しました。

3 議題(2)展示室及び収蔵庫等の配置について

事務局：(展示室、収蔵庫の配置について説明)

※ 菊池部会長到着により議長交替

菊 池：それでは今の説明にご意見、質問があればお願いします。

笹 本：元々、私たちはプロポーザルの時にA案、すなわち収蔵庫が中心になって、しかもここが一番安全だと判断してA案を強く押したわけです。つまり博物館とはいったいどこに意味があるのかといたら、本来は歴史をいかにして保管して、次の時代に伝えていくかであって、その上に展示が存在する。つまり今でできたA案B案の差は収蔵庫配慮型、常設展示中心型とか書いてありますが、収蔵庫中心型か常設展示中心型あるいは展示中心型と言った方がいいと思いますね。私も個人的には、やはり収蔵庫をきちんとやることの方が博物館としての意味が大きい。私、県

立歴史館の場合でも来る人は展示しか見ない。それ以上にここが大事だときちんと説明すると、皆さん非常によく納得していただける。そういう意味でも多少不便であっても、A案の収蔵庫配慮型の方が良くて、収蔵庫配慮型にした場合には天井の高さをそのままいろんな形で使えると思いました。意見としては、A案の方が私はいいと思います。

後 藤：B2のところには、それぞれの面積が書かれてないのですが、私も前のものがわからないので、これは面積どのくらいを考えておいでになるんですか、ってのが一点。それから収蔵、現在、地下にたくさん持っていますよね。新しく開館した場合には、沢山のものを寄贈したいという事だったり、よそで持っているものを集めたりという事が出てくると思うのですが、現時点で下にあるものを収蔵する場合、この収蔵庫で間に合っている計算になっているのか、その辺のところ、あるいは収蔵庫はまた別に考える構想をもっているのか、この辺を伺いたいと思うのですが。今笹本さんの話があった様に、歴史館開館5周年の時にいたのですが、収蔵庫ガラガラ空いておりましたが、今22年ですか、今はもう満杯になっている。だから収蔵庫を広くとって、ここが満杯になっていると考えると、その辺の所の兼ね合いをどうとっていくかという事が問題になっていくと思うので、収蔵に対する基本的な考えをどういうふうにもっておいでになるか聞かせていただければと。

木 下：まず、初めの面積についてはA1のところだけにだけ入っているのですが、基本的にはこの面積相当のものを確保するようにゾーニングを変えて提案をいただいているという事であります。プロポーザルの案で、A1が出てきてたのにこの検討に入っているかということで、私どもで常設展示をワンフロアで集約したいという要望がありまして、そのことを設計業者に提案したところ、いくつか考えてみましょうかというようになって、この検討に入っているという経過がございます。ご覧いただいて、北側の部分を部屋にしているか、通路にしているかで若干の面積の差は出てきておりますが、そこら辺のところはまた細部で検討ができるのではないかと思っているので、面積については今回検討の対象にしないという事でお考えいただければ有難いです。

それから収蔵庫の状況についてですが、今私どものところで14の分館をもっていて、そこにもたくさんの、特に民具の関係が多いですが、そういう資料を収蔵しております。展示については、もちろん全ての所で同じ様な展示をされていると言われているのですが、そういうのも基幹博物館、分館同士も含めて整合をとって展示検討しなす、さらにはいろいろ体験とかそういう事で劣化が著しいものはずっとこのまま保管していくのか、体験等に関わらず資料の状態がよろしくないものについてもこのまま持ち続けるのか、そういうところも一つ、突っ込んで検討

していかななくてはならないという事は同時にやっけていかななくてはならない課題かなとは思っております。特に合併をして同じものが沢山あるという状況で、これは突きつけられている課題かなと思っております。現状並行して、分館全ての施設でどれだけの資料を持っているかという調査もかけて今掘っているところでございます。まず、単純にこの博物館で新しい基幹博物館に引き継いでいかななくてはならないものを収蔵した場合は、この収蔵庫でどうだということでは、半分行かないかなという想定を今しております。ただ、分館、合併した旧町村から持ってこなくてはならないものの調査をかけた時に、これはそんなにない、ほとんどないという事になっているので、現状この新しい計画の博物館で半分までいかないところからスタートする。で、分館のものも含めて、新しい収蔵庫で、こんなところで保管していいのかというようなものも各地区に点在しているので、そういうものも集約していくという事も今後並行して進めていく。基幹博物館の収蔵庫だけではなくて検討をさらにしていくという考え方をもっています。

菊池：博物館側の方の考え方も今の説明でお分かりいただけたと思うんですが、収蔵庫の笹本委員のご意見、プロポーザルの考え方を選択し、一回これで意見を通しているのですから、これについてどうするのか。

私ここで個人的に意見をいって申し訳ないのですが、博物館の中で資料をどうするのが一番大きな問題だろうと思います。博物館で想定してはいけませんが、災害があった時に資料をどう逃がすかという事をまず考えなくてはならない。そうすると、これ3階の建物で一番上の3階に収蔵庫にあるよりは、たぶん動かすのにエレベーターだけですよね、そうするとキツイと思う。非常時に資料をどう避難させるのかという事をまず考えなくてはならない。それからB2案もなかなか魅力的ですが、常設展示、特別展示を2階、3階に綺麗に分ける、なんです、実は送っていただいた資料を見て疑問に思ったのが、常設展示室の面積の半分も特別展示に広さがあるのかなという事、しかも中で区切れるようにする。2、3室にそうすると全部を使う面積、展示に想定できるのかという事も考えて案をもう一回設計者に投げてみるという手もありではないかと、実は送っていただいた資料を読んだ時思った。そうすると、場合によっては特別展示室、常設展示室を2階、3階を入れ替えても良いかもしれないなと思っていた。もう一つは、収蔵庫から展示室の距離をなるべく短くした方がいいだろうという意見には賛成なんです。ただ気になったのが送られてきた資料の白黒の見ていて、天井の高さなんです、収蔵庫の中の天井の高は3m50cm、でこの収蔵庫の3m50cm天井はこういう風に張ってあるのでしょうか。そうすると、特別展示室は4m、常設展示室の高さ4mです。展示室にあるのをそのまま収蔵庫へ入

れられない事態が想定できるんですね。そうすると、今の収蔵庫の天井高を少し考えなくてはならないじゃないかなと思う。要するに、4 mあるものをサッと逃がそうとした時に収蔵庫で避難させる時に、高さが合わないという問題が出てくる。これはたぶん資料動線に全部に引っかかってくる事だと思うんですね。資料動線、廊下の高さ、天井高も3 m 50 cmではなくて、4 m必要になる。という事は、今度は展示室、特別展示室にしる常設展示室にしるその入り口のその部屋の天井高、入り口を含めて同じ高さが必要になる。全体的に響いてきます。そこを少しどうするのか方向性を決めておいた方がいいのではないかと思います。最初の収蔵庫の平面図について言いますと、展示室及び収蔵庫の配置について、全く異なる意見が出ておりますので、他の先生方からもご意見を伺っていきたいと思います。ご意見ございましたら。

原 : この2階に収蔵庫を集約する方がいいかなと。2階って特に今、安全とか考えると2階かなと思います。もう一つ、僕イメージがつかないのが、今の博物館のモノをそっくり入れてと考えるのか、松本市の中で色々考古資料など持っていますよね、さらにそういうのをそれだけの収蔵資料をどういうふうにかこうやっていくというプランがあるかどうなのかということ。例えば考古資料などは、考古の博物館にもっていったりそういう事をやっていけば相当選択ができるのではないかと、うまく入れられるのではないかと思ったりしているのですよ。それでここに考古資料が入る必要がないのかもしれないなと思ったりしている。そういうふう収蔵庫の中身のイメージがつかないので、変な話、主な収蔵資料これが入ってイメージなんですかね。全部入って半分ってことなんですかね。この5ページにある主な収蔵資料が入って。

後 藤 : 基本的には、今下のあるものは分けることはできないので、捨てなくてはならないものを入れなければ・・・

笹 本 : 博物館が松本市まるごと博物館構想が役割をきちんとそれぞれ持ってやっていくのであれば、考古博物館は考古をちゃんと持っている訳だから、今のようなごちゃごちゃじゃないような形にしていく。あるいはこの収蔵庫の中にいったい何を収蔵するのか、なにが一番大事なのか、しっかり論議した上でやっていく。ただ基本的には、収蔵庫が大事だという事を理解してもらうことによって市民の皆さんからの寄贈を含めて、この企画を含めて協力していただけると私は思っております。

改めて収蔵庫は真ん中の方の魔法瓶型が安全かと思えますね。

木 下 : まず、まるごと博物館構想に基づいて、収蔵の場所の整理という事で、現状考古資料、原先生の方からお話があった考古資料については、ほぼ今この博物館の中にはない状況にあります。昔、行政で緊急発掘をやる以前に学校で掘って入ってきたものの中で重要なものだけをここに残し

て、廃校の学校の校舎に収蔵しているというような事情です。先ほど申しました、そういうものと合併地区の資料を合わせてまた別の収蔵場所を考えなくてはならないという事です。これは埋蔵文化財の方と一緒にあって考えなくてはならない問題だと考えております。それから、ここにある重要な考古資料についても考古博物館の方に移管していく、考古博物館については、先だつての、博物館協議会でもちょっと議論をいただいた所なんですけれど、発掘する部署と一緒にの方が効果的な活用ができるだろうという事で、今埋蔵文化センターに展示の部分も移管するという検討をしておりますので、そんな中で資料についても、考え方については整理していくという事になります。

それから、資料の保存環境の重要性という魔法瓶構造という提案を受けてこの案に決めてきた事に対して、私たちがどう考えているかという部分なんです、バラバラで議論していけないんですが、後でお話させていただく常設展示室についての考え方なんです、博物館の常設展示はいつ行っても変わらないと言われるケースが多いということに対して、新しい博物館や大きな博物館では、開館後10年ぐらいでリニューアルをかけていくというような手法をとっている所も多いかと認識を持っているのですが、私どものところでは、常設展示ではテーマで、施設構想の中でテーマを決めていただいて5つのテーマを決めていただいた。その5つのテーマの中で、トピックになるようなストーリーを描けるような展示を組んでいって、ただそのテーマの中でそれだけではないので、それを何回かに置きかえて、展示替えをしていく。それで毎年来るとどこかが変わっている、というような常設展示を目指そうかと検討しました。そういう中には、一次資料と二次資料も多く入ってくる。そういう環境の中で、常設展示室の隣にある収蔵庫で移動距離を短くして展示替えをしていくような事を考えました。菊池先生からのご指摘があった階高が違う事に対して意味があるのかという事に気づいておりませんが、その部分について今後の検討課題でもありますが、私どもの考え方としては、重要な資料については当初のこのご提案通り魔法瓶構造で、特に特殊収蔵庫を中間に配置して、しっかりと保存環境を保って後世に伝えていくという事は意識をしたうえで、観覧者に対してもわかりやすい動線ということを考え、B2という事を事務局といたしますか、博物館の方で考え提案させていただきました。

菊池：B2という事で博物館の方でお話がありましたが、若干、プロポーザルで示された案を選択するわけではないという前提ではありましたが、でもその基本的な考え方は生きてくるだろうと思うんです。そうすると、笹本委員の意見も当然プロポーザルの時についていた訳ですから、これを考えているのかという事になると思うのですが。

笹 本：ですから、私、今の説明の場合であっても、仮の話ですけどA1の場合、A2の場合で常設展示、特別展示が上下で別れていた時に、例えば、あくまでも例えばの話ですけど、A1の場合は上と下が良くて、一つの下の方真ん中の方を閉じて、上の方だけやっている時期だとか、展示替えは上下の方がかえって、中でもって一つの階の中で色々やっている方がはっきりしているだろうし、それで特別展示については一気に見た方がずっと見やすいので案としては、僕はA1が一番よくみられた。プロポーザルの時に我々取る方も、きちんと理由があった上でやっているだろうと思います。先ほどの説明でいったようにB2の場合も同じように重要なものに関しては魔法瓶型と言いますが、収蔵庫の収蔵品が3階に行ったものをどういうふうにするのか、それから菊池委員がおっしゃられたように今我々が目前に災害があるかもしれないという事情に意識していて、本来は1階の方が良いけれど、この場合水に浸かる可能性があるから2階にもっていった。それが3階と言う形になると説明が困るのではないのか。少なくとも私は、プロポーザルが終わった時に真ん中の魔法瓶型であることをただ評価しました、と言う言い方をちよっとしてしまったので、これは説明キツイなと私は思いました。

菊 池：というご意見ですが、他にもあろうかと思いますがいかがでしょうか。

木 下：もう一つは、公開承認施設の関係でしょうか。特別展示室で重要文化財等を借りてきて展示するという事を考えた場合に展示環境、特別展示室の展示環境を重視しなくてはいけないのかなという事も検討しておりますが、ただA1の提案では断面図をみていただければわかると思いますが、特別展示室には天井を張らない。常設展示室もそうですが3階の展示室には天井を張らないという提案がされています。その部分、借りてきた重要資料に対する環境という事についても、B2は2階にもって来るという事で、クリアができるのではと考えました。ただ、天井を張ればいいじゃないかという事もあるんですが、天井を張るとすれば、3m50cmで張って上の空間がほとんど死にスペースになってしまうという事あるので、そんな事からもB2案は借りてきた重要な資料に対しても優しいかなということが一つ、私どもが判断するときの材料とはさせていただきます。魔法瓶構造の収蔵環境はいいものだとして理解していて、非常に良いやり方だと理解しているので、その提案は採用をしている上で、もう一步検討したのがB2案という事で考えております。展示についてはその時考えが及んでいなかった部分もあるのかなと。それからなによりも、もう一回言って、展示中心型と書いてあるのは、常設展示室をワンフロアでと、こちらの提案で行ったのでこういう見出しを作ってくれたと思うんですが、これから後は展示の中身との関係もあるんですが、まずどうしてもこの吹き抜けの構造は3階に誘導するという

のは建築屋さんのアイデアで、そこから降ろしてくるという動線を検討している。私ども、常設展示を検討した中でなかなかそういう風に見ていただくような考え方が上手くできなくて、ワンフロアがいいのかなと思って、そんなことでB2案を事務局が推す検討の結果という事があります。

菊 池：結局、A案B案で大きく違うのがやはり収蔵庫を上にもって行くのか、特別収蔵庫だけ上にあるA案に対して、B2は収蔵庫1が上に来る。それによって常設展示室がA1だと2つ別れるのを一つにまとめた。このメリットはどのような事があると考えたのでしょうか。常設展示室が1室になる事と、2室になる事と、どのような違いがあるのでしょうか。

木 下：実は必ずしも常設展示室が1室でなくてはならないという事はなく、テーマ展示で来ているのでいけないという事ではないのですが、動線上狭い展示室が2階の方に来てしまうというのが少しどうなのかなと思い、具体的に考えた事を申しますと、後の議題になってしましますが、松本城の関係の展示室をある一定のテーマで設けていかななくてはいけないのかなと考えて、それをA1の2つに分けた場合で言えば2階の方の広さかなと想定しました。その場合に、まっさきにお客さんが上がった場合、私どもは民俗の展示が非常に重要なものだと考えておりました、例えばお城を見て、民俗展示を見てまた松本城をみて帰っていただくという事で良いのかなと、あるいは行ったとき上がった時にお客さんから見てどうなのかな、じゃ下から見て上に上げるという事はできるのかなとといったことを皆で検討した結果が、ワンフロアに集約するという事が一番お客さんにとって松本をすんなりと理解していただけるゾーンニングではないかと、話し合いの結果落ち着いたという事です。

笹 本：今の話そのものが僕は違うと思うのですが。松本城は、展示の中でどういう位置になるかしっかり論議されてなくて、その観光のためみたいな、お客の話をしてはまずいだろう、そもそもこの博物館は市民のためにあって、市民のお金で出す以上は市民にとって私たちが住んでいる松本の地域環境がどうなっているのかとかそこから出発して、その中で特別な意味を持つ松本城という流れにすれば全く問題のないわけだし、それは先ほどの特別展示室の高さ等によっての環境問題にいいわけだし、それは次の段階だと思うんですよ。まずは私たちが収蔵庫をどこにするかという事は博物館としてなにを一番大事にしているかという主張に僕は繋がっていくと思うのでA案の方を強く主張したのはその部分です。それで展示に関しては中のいくつか部屋に分けると最初から言うてはいたのですから、そうすると、逆に部屋を分けていくという論理からすれば全く問題はないと思うんですけどね。

菊 池：というご意見があるという事ですが、いかがでしょうか。

後 藤：私は短い期間でしか博物館にはいなかったのですが、展示をやっている立場でいうと、B2の案の方が中にいる学芸員さんにとってはやりやすいんじゃないかなと思います。ただ、ワンフロアの方がいいのか、分けた方がいいのかのあたりは、まだ私のほうでも考えがまとまっていませんが、ただこの考え方が3階に人を上げてから下へ降ろすという考えた方ですよね、どっちにしても。そうすると、エントランスの方で例えば、市民芸術館のようにああいう広いどーんと上へ上がってくるというような口があれば皆お客さんは上がっていくと思うけれど、そうじゃなくてエントランス部分は階段の中も狭かったり、エレベーターにみな突っ込まれるような形になると、学校関係者が来た場合にはバーンと上に上げていくのが難しい。ただこれは玄関の構造をどうするかという事に絡んできて、その辺は私向こうから聞いていないのでわからないのですが、一番先にどーんと3階にお客さんを導入できる、そういう構造になっていけば、B2でいいのではないのかなと思います。

菊 池：どうですか事務局さん。

事務局：今回はエスカレーターを設置をするということで、3階までエスカレーターで上がれる、下りのエスカレーターについては、今つけるかつかないか検討をしている。上りの件に関しては設置するという事です。

後 藤：エスカレーターはデパートみたいな小さなものを付けるのですか？それとももっとでかいのを付けるのですか？

事務局：大きさも含めてこれから検討になります。

木 下：補足ですが、図面の右側の色のついていない所が吹き抜けを想定してまして、そこに斜め線が3階部分にあります。これがエスカレーターで2階から3階へのエスカレーター。1階から2階へのエスカレーターは2階部分の左側にまっすぐついているこれです。これで3階まで上げましょうというお客さんの動線として提案されたもので、斜めについているエスカレーターはかなりおお！というぐらいなもので。ただそれに対して、ランニングコストとかそういうのも検討をしなくてはならないとプロポーザルの選考委員会の時に少し課題になっておりました。

菊 池：基本的にエスカレーターについては、A1案もB2案は同じですか。

木 下：はい。そうです。

菊 池：ちなみに、江戸東京博物館の前の竹内館長がぼやかれたことは、何をぼやかれたかというと、エスカレーターだったんです。要するに、あそこは2階から6階の常設展示室の入り口まで長いエスカレーターがあります。大きいです。これを動かすためにもものすごく電気代がかかったんです。入館料がほとんどそれに消えちゃう、だからいつも赤字になると責められる、けど止めておくわけにもいかない。だから館長がおっしゃったようにランニングコストがどの程度、それによってはこのエスカレーター

がいかせるのか、お荷物になるのか分かれ道になると思われる。ただ今の段階ではA案B案どちらにしるこれで上がっていくという事を前提にしているわけですから。ただその前にも右側のエスカレーターは収蔵資料をあるいは借用資料を搬出には使えない空間である。細かに見ていくと一番左側、北側になるのでしたっけ、北側の部分の一台のエレベーターなんですね、緊急時にどうするのかと非常に心配している。大阪市立博物館が大阪城から出て今の場所に行くときに、文化庁の美術学芸課からなかなかうんと言われなかったのは、そこだと思います。上に収蔵庫を持ってこようとしたのです。やっぱり緊急時の避難をどうするのかという事で、なかなか了解が得られなかった。ですからこれから公開承認施設になっていく時には、アルカリガスやそれと一緒にの問題だけではなくて、避難資料の搬出入の動線も問われることになると思うので、そこも意識しないといけない。そうすると収蔵庫が一番上にない方が説明しやすいと思う。見た感じだと、まあ2階までにしましたね、と見えますから。ただ、今ご意見を伺いながら図面を見直してますと、一番上の階に常設展示室、特別展示室をもっていくのには無理がある、要するにフロアの面積的に無理がある。そうすると、常設展を二つに分けるのか、分けずに一つでいくのかという選択肢になると思うのですが。笹本先生そのへんは常設展示室を一つにするのか、二つにするかについてはご意見がありましたらお願いします。

笹本：さっき申しあげたように、あえていつも変わるといふ時に、つくる時の委員会の中でも、部屋を閉めて、一つの部屋を閉めてその部屋中は展示を変えても他の展示を見えるように常に最新のモノを入れられるようにという事を前提にしているという事は、一つひとつの空間が閉じられる空間になっているはずだと理解している。ですから、そういうことから言うと展示室が二つに分かれている方が、かえってそれの方が使いやすくなるのではないかと思った次第です。

木下：私どもの考えた常設展示室のプランは、テーマを区切ってはおりますがテーマで部屋を仕切るという考え方をしていないということです。松本という特徴を一つのフロアで表したいと私どもは、常設展示の検討の中で考えました。ただ、区切れるとしたらそのお城の展示をつくらないという訳にいかない、松本市の博物館でこの立地で。ただ区切るとしたら松本城だと。そのスペースが、と先程話した部分になる。そういうところでは、一番最初に笹本先生にこんなふうに考えましたと話したときは、特徴がなんにもないと言われたが、さらにそこでうちの常設展示室をどうしようかとまた考えたというところで、もっと分かりやすく一つのテーマを極端に言えば、特別展みたいなイメージで、あっと見たらこれは松本だと思ふ様なものを、しょっちゅう変えてやっていきたい。だけど、

それは個々の閉じたものでないよという事も表したいし、テーマが変わった時に広さも変わることもあるだろうと、という事を想定して部屋で区切ることを排除している。そういう検討をした中からどのゾーンニングが良いのかというところまでして、ただ面積が足りないものについては動線の部分でクリアにして面積を増やしていけるのではないかと想定して、面積に関しては先ほど申しましたが、ほぼ同じ面積をとるという事を前提に考えております。

笹 本：改修の時期はどうするのですか。今言ったように、もともと閉じられた空間を一つひとつ閉じていくと、いつでも見せることができるという案だったと思います。あの時言ったのは、真ん中で周りに入っていけるやつにしましょうというのが出ていて、今の話だと改修しながらの時には見せるんですか、見せないんですか。つまり工事中の時にはそのまま工事を見せているんですか。

木 下：改修工事のイメージはしていません。あくまで展示替えというイメージをしています。展示工事費、先ほど11億という枠を与えてもらっています。その中で、それぞれのテーマ2回分の展示を組み立てようという事で、考えています。それを入れ替えていく、二つ目をやる前に状況が変わったら修正をかけていくこともあるでしょうし、その展示がもし二巡目がくるとすれば、その時の新しい用法で修正をかけていく、その間にもっとこのテーマの中で重要な事ができてきたら、また新しい展示を計画していくという事を20年で展示改修工事、その間10年で見直しの期間というサイクルを持ちながら展開をしていきたいという考え方をしています。

菊 池：すみません、今の話の中で理解できなかったところが一つありまして、11億の展示工事費が確保されている。その11億の中で2つの展示を考えるということなんですか。

木 下：はい。ほぼ倍の展示をつくれなかなと、松本城みたいな固定的なあまり変わりようのない、変わりようのないと言うと失礼ですけど、変わらないだろうものを除いて、4テーマを変えられないだろうかと。その大部分について、つくりこんだ展示の中身について、要は公開をしていないものについてこの収蔵庫1で管理をしようと思っています。

菊 池：そうしますと、ますます常設展示室が一つである必要がなくなるのではと今の説明では思うのですが。ようするに、展示替えを想定していくのであれば、全体を一つの部屋にするにしろ、なんにしろ、テーマごとによって変わってくる訳ですね。そうすると展示テーマがあって、その展示替えをするというと、どっちにしろパッと変わるか、あるいはそこの展示の構成それ自体が全体の流れの中で一貫性を持たせるかどうかとも考えなくてはならない。今の話ですと、2倍のテーマを考えてやる、そうすると

部分的な入れ替えだけじゃなくて変える時に全部変えなくちゃいけない、ストーリーが通らなくなる危険性がある。ストーリーをつくってしまうと。それをどうするのかなど、今ご説明を聞いていた疑問なんです。それが一つと、福岡市博の展示があるのですが、その福岡市博は実はまったくのオープン空間、スペースなんですね、1か所だけに立つと常設展示室全体が見渡せるんですね。ただ欠点がありまして、自分がどこにいるのかわからなくなる。ですが、あれ全体が一つのテーマに沿ってるから分かりやすい、なんとか分かるんですが。その中で、一部がぼっと変わった時にあの全体の構成ストーリーがいきってくるのかどうか疑問。展示替えにするにしても、たぶんですね、みなさんが今のぐらいの年齢の時には、休みの日、休館日にやると言っても頑張ってやるんです。だんだんと歳をとっていきます、皆。そうすると、休みの日に休まないともたなくなるんですね。それを考えると、やはり空間は区切ることができた方が、楽なのかもしれない、と今説明を聞いて思ったのですが、その点はいかかですか。

木 下：ちょっと後の部分、組織自体が歳をとるんじゃないかというのは置いとかせていただいて、私たちの今の博物館は展示室が本当にウォールケースがあるだけで、そこをどんどん展示替えをしていく、常設展示についてもずっと出ているんだけど、変えられるのに変えないんじゃないかと言われれば、それまでの話になるんですが。そうじゃなくて、そう長い何か月も休まないで変えられるような展示で、とにかく変えていって、松本にはこれだけしょっちゅう変えなくてはいけない程見ていただきたいものがあるんだと訴えたい、それが今の歳まで続くかというのはあるのかもしれないのですが、少し今までの概念を打ち破ったそういう事も、一つチャレンジなのかという事もあって、そういうことをぜひやっていきたいなという思いはあります。

原：僕は長野県立歴史館におりまして、半期、1、2年に3回ぐらい替えたりして、大きくはどうかと行って替えたと言っても、わからないんです。正直言って。どこまで大きく替えられるのかというとコンセプトがあって、その中で、小さなものを一個変えたぐらいでは、市民にはわからないんです。大きなブロックで替えるような形にしないと、やはり二度三度来た人には、分からないですね。そこは難しいところ。ここに置くものをこれからいいものがあれば替えていく、たぶんね、ダメだと思う。そういう所は非常に難しいと思う。そういう所はどう考えているのかと思うんですけど、だいたい全体を通さないで変えないなら、その都度替えたらいいいと思うんだけど。そういうところをしょっちゅう変えたいという発想をある程度掲げとかないと多分、11億を半分に分けているんですよ。逆に非常に難しいんじゃないかと思います。本当に何回も

来る人に、変えたように見えないと言われた。土器なんかもみな替えているものすごく。6か月に一回ぐらい変えているんですけど。そういう展示替えのもってるイメージをどういうイメージかって言うのをぜひ考えた方がいいかなと思った。

笹本：さっきの話だと、一時期に2回分をつくってしまうと言いましたよね。実は、学問の発達によって、5年、10年経つとすごい古くなるんですよ。5年前の展示を置いたならば、ものすごくおかしくなるし、逆にいうと、永久に5.5億は毎年必要になってきますよと。その担保ができるのかという問題もでてくると思う。そういう意味で少し、全体構造をお考えになった方がいいだろうと思う。私、途中退席してしまうのですが、依然として気持ち的にはですね、博物館の使命とは資料の収集と保管であり、収集と保管という事をきちんと訴えていくためには2階に全部まとめた方がいいなところに訴えやすい。で、その方が私たちが今まで博物館とは何かという論議をしてきた部分は説明しやすいと思った。

菊池：ご意見はよくわかるのですが、もう一つは展示計画の中で、皆さん展示構成をしていく中で、これまでやってきた事を反映していく上でどういう部屋になった方がやりやすいのか、より分かりやすいのかということが大きな問題だと思うのですね。理念としては収集保管が中心だった、それは誰も反対もしないと思う。それが2階にある。非常に重視している事を訴えるためには好都合である。まさにその通りだと思う。ただ問題は、これまで検討を重ねてきた博物館、新しい松本市の博物館がどういう展示の構成をしていくのかという事を踏まえて、じゃ部屋が具体的にどうあるかという事が先にあるんだと思う。それは、収集保管ということと並置されるぐらいに大きな問題だと思うんです。だから、一つは展示をどういうふうに構成して、どう使っていきたいのか。今のご意見ですと、展示が一部屋で全部見渡せるという事になるんですが、これは、非常に利点もあればマイナス点もある。という事は当然承知されていることだとは思っていますが、いい例、それが先ほどの福岡市博の展示がそうなんです、全部見えちゃって、自分がみているものが今何かわからなくなってしまう。それと似たようなやり方ですが、規模は違いますから規模はまねる必要はないと思いますが、考え方としてはしょっちゅう展示替えをしている、それも展示工事、開館の時の展示工事で作るのでなくて、部屋はその都度閉めて展示替えをしている、各テーマごとに。真ん中にメインのテーマがあってそこから各部屋に自由にどこを通ってもよくて入っていく、自由にフリー動線というやり方をとっている、そこは九州国立博物館がそうなんです。それをつくる時に、展示替えするための動線をちゃんと意識しておきなさいといったやつです。ですから、どこか一か所だけ閉

めて、展示替えが、開館中にもやれるようにしたんです。そういうやり方をしていかないと、たぶん原先生が言ったように資料の差し替えをしたぐらいじゃ、なかなかどこが変わったんだと言われて、長いことずっとそう言われ続けてきた思いもあるのですから。どうせやるなら、変わったという新しくなったという事をアピールするためには、やっぱりそういった事も意識していく必要があるのではないかな。だから、展示で何を訴えるかを考えて、その部屋の使い方を少し考えていく。そうすると面白くなっていくと思う。で、こういう案をとらなくてはなりませんから・・・

笹本：それはお任せしますけれど、先ほどの通り私は基本的な部分としては、今までのプロポーザルの件もあるし、それから、博物館の理念やらなにやらからすると、そちらの方がいいではないかという意見を申しあげただけで、後は皆さんで・・・という事で。すいませんが、よろしく願いします。(退席)

菊池：遅れずにこれならもう少しいろいろ笹本先生から意見言ってくださったのではないかと思います。申し訳ありませんでした。ただ、実はプロポーザルの時に笹本先生のご意見がありましたように、九州国立博物館の時にも同じ問題がありました。最後に展示、建築業者のプロポーザルをやった業者が決まりました。菊竹清訓さんという江戸博を設計した設計屋さんだったんですが、菊竹さんの案にしたんです。2年目から建物の基本設計の委員会が始まりまして、あの時は我々、大多数は、プロポーザルとは全然違う意見を言い出したわけなんです。ガラス壁面をやめてくれだとか、温湿度の管理がしにくいからあまり大きな吹き抜けの大空間をつくらなくて欲しいことを言ったのです。最後設計者の菊竹清訓さんは何を言ったかという、私の案が通ったんだ、だから私の案が公認されたのだからこの通りにやるという意見だったのですね。

ですから、プロポーザルというのは、設計の中身を選んだのではなくて、理念を選んだんです。こういう考え方でいくという。それを考えると、全てプロポーザルにとられる必要はないのだからと思うのですが、ただ一人歩きをしていますから。すでにこのプロポーザルでの案についても、この案がいいんだという形で、しかも図面を出してしまっているから、そこも問題。笹本先生がおっしゃるように、その当時の委員、その時の委員長が笹本先生ですから。笹本先生がそれをこのプロポーザルの案がよろしいと意見で答申したわけですから、それをまた否定していくというのはまた大変な話です。そういう事もあって、A1案にこだわられたんだと思います。A1案が自分としては一番いいと思っているが、最後は任せるといようなニュアンスのご発言でしたからそこも踏まえながらも少し意見を詰めていきたい、今もまだまだ決めかねる思いというような。

木 下：委員長すみません。3番の展示計画というので、今少しご説明した私たちが何を考えているのかというのが、やはりこれを多分示さないで。笹本先生が今日はどうしてもここまでという話があったので、これをやはり笹本先生がいるときに決めないといけないのかなという順番で組んでしまったのですが、なかなか肝はこっちの方にあったのかなということで。ちょっとだけ話をして、休憩を1回とりたいと思います。8ページをご覧ください。

後 藤：その前に質問いいですか。収蔵庫の中身の設計が見えてないのですが、これは全部収蔵に使うのですか、前室を設けて展示準備が設定できることも含めての収蔵庫ですか。

事務局：前室は含まずに、収蔵庫①とふられたところ、例えば、カラー刷りのA3資料のA1で申し上げますと、収蔵庫の前室にあたる部分は特殊収蔵庫の北側の所に東西方向に長細いこの空間がいわゆる前室にあたる部分になります。なので収蔵庫①、特殊収蔵、収蔵庫②と振られたところはまるまる収蔵庫の部分という事でお考えいただければと思います。展示準備の関係のスペースについては、設計者の方にも、もう少し考えて欲しいと伝えていますが、例えばA1案2階の常設展示室②≒400㎡の下、真ん中ぐらいにうっすら南北方向に線が入っているかと思いますが、ここは展示の倉庫として使えるようにと設計者の方でも考えているようです。

菊 池：すみません、どこですか。

木 下：常設展示室②≒400㎡の下、白く色がついていない部分です。A1です。この部分です。真ん中より右よりに縦の線があるその横に二重に線がある、その間。

後 藤：前室はしっかり取っておいた方が展示関係は楽ですよ。

原：演示具などを置く場所はどうなっているんですか。今考えてると結局そういう大きなブロックでものを置くことを考えている、こういう小さいのではなくて、大きなスペースで置くことを考えていると思うのですよ。一つの四面ケースなんか、演示具の置く場所、今の考え方だと結構場所をとってくると思う。今うちが困っている事は、大きな展示会をするのでその演示具の置き場所と、その置き場所が意外と取ってしまって、ある程度一定程度ないと講堂の裏とかとんでもないところまで出ている。

菊 池：後で申し上げようと思っていたんですが、これも3階のA3白黒の図面のB-B断面図の特別展示室の上のあたり、天井に蓋はないとなっていますが、一応天井高が一番低いところで壁面4mとあるわけで、この辺りで天井を張ると天井の裏や上に使えるスペースが出てくるんです。そこに演示具をしまったりと、ということに使えるのではないかと。だからここは

天井の吹き抜けじゃなくて天井をつけた方がいいですよという一回後で言おうと思っていたんです。

原： 演示具の細かな展示替えをするのはいいけれど、大きな展示替えをするとなると、演示具等が相当場所をとってしまって。1回ごと捨てていけばいいんですけど・・・

菊池： 福島県立博物館は基本的に平屋だったんですが、天井裏にいくつか収蔵庫やオープンスペースがあったりしたんです。開館以来、展示の度にサイコロが増えていく、展示ケースが増えていく、全部そこに入れ込んでいく、なぜ積層階の上が使えるかという、エレベーターが3階までじゃなくて屋根裏まで続いていた。だから荷物を運べるエレベーターは3階で止めないで、もう少し上の階まで行けるようになっていけばいいと思ったんですね。でないと、人間じゃ運べないですから。というような事を思っていたのですが、先に展示計画の説明をお願いします。その前に、3時になりましたので10分だけ休憩を取りたいと思います。

【休憩】

4 議題(3)松本市基幹博物館展示計画について

菊池： 予定時間が四時半になりますから、それでは時間を見ながら進行をはかりたいと思いますので、よろしくをお願いします。再開にあたって、(3)の展示計画についての説明をお願いいたします。その後でそれを踏まえながら、先ほどの(2)展示室および収蔵庫の配置について、再検討して採択案を決めたいと思います。

事務局： (展示計画について説明 P13まで)

菊池： 只今の説明で質問等あればお願いします。

後藤： 子ども向け展示について、具体的な場所はあるんですか。

事務局： はい。1階の中であつていきたいと考えております。ただその点につきましては、設計者が提案してきております、委員の皆様を送りました技術提案書では2階に配置されている様になっております。親子の博物縁という名前が入っておりますが、敷地から行くと大名町側、東側のところに配置されておりますが、ちょっとそこでは設計者に対してこうしたいということで内々には話しを伝えております。

菊池： そうすると、A1の2階の一番右側のところですね。

事務局： はい、そうです。

後藤： 1階に降ろしたいという事ですね。もう一点いいですか。これからはコンピューターだとかAIだとかの時代に入っていくと思うのですが、それへの配慮はどのように考えているのですか。

事務局： デジタル技術の活用の部分については、そこはなるべく慎重に考えてい

と思っております。一つは、例えば映像等を展示室に組み込むといった場合でも、やはり入れてから数年間はいいいのですが、10年とか経っていくとどうしても機器が古くなっていくとか、更新が必要になるという様なことがあるので、なるべく慎重に考えていきたいなと思っております。例えばAIとかまで含めて今議論ができていう部分ではなくて、今の段階で、念頭に置いて考えているのが例えば映像ですとか、デジタル機器の導入については、なるべく多少コストがかかるかも知れませんが、例えばリースという様な形で更新が担保できるような形で考えていければと思っております。

原 : よくわかったのは、更新しやすい展示とかそこら辺を強く言っているのはよくわかりました。変化し続ける常設展示、大テーマと中テーマを分けていると思いますが、どのレベルでやるかという事が、そこが大事だと思う。小テーマを変えても分からないと思う。そのことを考えて先ほど区切るか区切らないかが出てくるのだと思います。変化しやすい、変化するというのは、平らでこう広い方が変化しやすいのだと考えていると思うのですが。そこを話をしていきたいと思うのですが、だいたいそういう意味です。

菊池 : それでは、私の方からまず最初に用語の確認です。5ページの一番下。最後のところで、身体障害者等の配慮と書いてありますが、今、身体障害者とは使っていないですね。ここは気をつけて確認していただければと思います。6ページのところ最後のテーマに関係する様々な解説パネルを用意すると書いてありますが、これあまりパネルが多すぎても実物の資料を展示すると言っていることと齟齬をきたすんじゃないか、パネルが多くなればなるほど、実物使用が少なくならざるをえなくなってしまう。だから適度な使い方をするというふうにはここはしておいた方がいいと思う。それから、これは最初の(2)の議題と絡むのですが、8ページのイメージ図が、上の常設展示室を1室構成とした時に、体験ゾーンの問題が出てくるような気がするのですね。体験ゾーンで何をするかにもよるのですが、実際にものを作ったり、触ったりというのがあれば、同じ常設展示室、一つの展示室でやったらそれはどうなのかな、と。下の図面からの方がなんとなく説得力を持つような気がしてしまう。体験学習、あるいは参加型の博物館のあり方って大事なんですが、ある意味、資料の収集、保管という立場からとは相反する部分は出てくる事なんですが、ここの体験も具体化していかないと、下の2室構成とした時の体験ゾーン、3階の体験ゾーンと2階の体験ゾーンがどういう関係になるのか。あるいは、3階の想定している体験ゾーンを2階に全部移すというやり方もありえるのではないかな。できれば、資料そのものも博物館の展示されている収蔵資料と体験で使う体験室が違う方が

いいなど。アイヌ民族博物館をつくる時もどうしようかというところで、実は展示をすると、今同じ名前のアイヌ民族博物館がこのところより、さらに90度振ったところにあるんです。ここを、体験ゾーンとして、歌をやったり祈りをしたり、織物をしたり、現在やっている活動をそのままそこで展示室から出て体験できる様にした。さすがに展示室の中でやろうと発想は誰も持たなかったですね。体験のあり方を、なにを体験するのかと関わりますけれど、それを踏まえて少し考えた方がいいのかなと思いました。それからまた用語です。9ページ、(2)特別展示のAの一番最後の行の、「ただし、資料動線用出入口」とこれ、資料用動線ってのは、資料用動線は連携を取っての動線ですから、ここは資料搬出入用の出入口でいいのでないのかと思います。あと、確認なのですが、10ページです。天井高・床などというところでは、天井高が書いてあるのでしたっけ。

事務局：今の段階では入れていないです。

菊池：そうすると、「展示資料、収蔵資料に必要な天井高を確保するものとする。」、それは資料動線上にある天井は、全部それだと指示を出した方が、展示設計をする側は動きが大きければ大きいように設計しますから、実際に指示を出しておいたほうがいいと思います。何mと言われると、想定外のやつが出て来た時に直すのが大変ですから、必要な高さとしておく。これぐらい必要と言うのがあった方がいいんじゃないかと思う。それから、床の問題でなんです。阪神淡路大震災の時に神戸市博に一月いった時に、教えて貰ったの事なんです。それまで床は滑らないようにと言っていたんですが、滑らない床にしたため、展示ケース、資料が全部やられたのです。滑ったところは資料ケースが動いてくれたので助かったのです。という事があるので、地震対応というのを少し謳っておいた方が良くはないでしょうか。同じページの展示室の環境等についての下です。各展示室の壁面にはピクチャーレールを配置するとなっておりますが、ピクチャーレールというのは、たぶん一本しか入らない。そうするとただぶら下げるだけなんです、それでいいのかということなんです。要するに、一定の幅を持って、壁面それ自体にレールを組み込んでおくような装置は必要ないのか。「ピクチャーレールにします」とすると、全部ピクチャーレールで済まされてしまう。必要に応じて壁面の展示が可能になる様な方策を考えてもらう様な指示を出しておいた方が・・・業者に渡す指示書であれば。

以上が説明を受けての感想ということで、特に8ページの図面との関係からいうと展示室及び先ほどの議論のところとリンクしている、参加体験型のゾーンで何をやるかによっては、やはり1の方が無難かもしれないというのはありえる。逆にこの体験で、特にものをいじったり、飛ば

したり削ったりというのが無いのであれば、常設展示室の一つの中にあってもなにも問題はないと思います。ということを見てて思いました。以上です。皆さんからのご意見、そうじゃないなと思う事があれば伺って。

原：体験といっぱいあるが、なにを意味するのですか。

木下：5章のところで少しお話しをさせていただくように予定しております。展示室の中でやる体験は大きなことは考えてはおりません。

原：体感かな。感じるのですね。体験とは違う。体験だともものを触ったり切ったりというイメージになる。

木下：そうですね、表現がどうかっていうお話しですね。体感の方が近いかもしれないですね。

後藤：桜井さんがいないので、子どもの関係でお聞きしたいのですが、1階の講堂あたりを多分利用して子供を受け入れて、話をしてと考えていると思いますが、この講堂はどのくらいの人が入れるように考えているのですか。

事務局：はい。施設構想の段階では、マックスが8,000㎡というところも含め考える中で150人～200人程度という事で位置付けをしております。ただ、今全体的に面積としては厳しい状況になってきておりますので、200人というところは厳しいのかなと思っております。

後藤：大手の駐車場が向こうにできて、バスの中に荷物を置いてみんな来るといふ事にすれば荷物を持ってこなくていいけど、子どもたちの場合には、探検バックやリュックを持って来るので、そういうのを置くスペースがどうしても必要となるんですよね。その辺りは講堂を使われるのかなという感じがするので、その辺も十分に検討したい方がいいのかなと思います。

あとは1階のスペースがいろんなもので構成されていますよね、先程子ども向け展示スペースを1階に降ろすという事になったり、あるいは色々なスペースを取ったりすると、2階の展示とは直接関わってないですけど、博物館として大事な部分がかかり検討しないといけないと思います。先程コンピューターだとかAIの話をしたのは、ここにたぶんそういうのが入ってくると思うので、それをこの図書・情報室のあたりでやるとすれば、それなりの検討をしないといけないだろうし、展示の補充の意味ではこれからコンピューター、AIはかなりなものになって来て展示の場所じゃないところにそれこそ設置して見てもらうということも考えていかないといけないと思います。

菊池：7ページのところに関わるのですが、導入展示室は1階のエントランス隣に接したところに設けるわけですが、ここには資料も展示されるわけですね。

木 下:ゼロとはいわないですけれども。

菊 池:極力少ないほうが良いと思うのです。1階ですから、温湿もコントロールしにくい、それから当然、虫やカビも運んできますから、そこに実物資料、博物館の資料がない方が良い、無い事は無い方が良いと思う。あんまり展示しますよと謳ってしまうとあれかな。ただ構想のなかではこういう構想でプロポーザルの時も説明きているのであまり言えない。もう一つは、子ども向けの展示をつくるということを謳った時に、こっち側のスタイル、業者に子ども向けの展示設計をなささいよと指示をだします。その時に展示を、子ども向けの展示とするだけで良いのかどうなのか、要するにミュージアムやエディケーションをする人みたいな立場の人を配置することを考えるのか、意外に子どもって大変ですよ。だから子供の専門家じゃないとやれない部分は結構あるので、そうすると内側の人員、人の配置の問題にも絡んでくるのではないかと、そこまで想定しておかないと。じゃ、やりましょう、と言われた時に対応ができるのかどうなのか、要するには腹づもりをしておいた方が良いと思う。

木 下:一応、親子という言い方をしているのはそこらへんのところに一つ。

菊 池:はい、分かりました。他にどうでしょうか。

原 :学校単位内で置こうという事だったよね。学校学外は。先程いった下において。

後 藤:学年単位じゃないか。学校単位じゃなくて。

原 :一人30人から40人と書いてあるから。

木 下:こちらは一人で、学芸員が相手できるのがその位という事で、今市内だと3クラス多くて4クラスというイメージをしていて、それが全体のキャパの150とかっていうところに反映しているイメージで数字は使っております。

原 :そういう団体を案内して、学芸員が連れてまわろうという意識なんですね、あの常設展示室を。

木 下:通路の関係とかそういうところですかね。

原 :あまり多くだとね、駄目だね。要するに、こんな広いところにぼっと入れてもいなくなってしまう。

菊 池:それでは時間も少なくなってきましたので、なんとか次の第5章に移っていきたいと思うのですがご説明をお願いします。

事務局:(展示計画について説明 P13から)

菊 池:ありがとうございます。せかしてしまいまして、すみませんでした。只今の説明で質問・・・

後 藤:ちょっといいですか。14・15ページなんですけど、中テーマに関することとお聞きしたいんですが、14ページのところに中テーマ1・2とありますよね、今後3なり4なりとなっていますが。これは15ペー

ジの山・水・道でいったら温泉というのが一番最初に3、4年間続いてその後、街道の十字路というのが変わってくるというそういう意味ですか。

事務局：はい、その通りです。

すみません、同じ市の中で申し訳ないんですが、ちょっと確認だけさせてもらいたいのですが、今、後藤委員が言われたようにこの表による、大テーマ2の中テーマ2の場合は、実際、展示制作するのは開館の1年くらい前なので、8年先に展示するものを今回つくるということですか。

事務局：そういう意味。

原：松本城がいいとして、山と水と道をこの温泉一本でいくのは大変キツイのではないかと、正直言って。普通、大テーマが1つあったら、中テーマを2つぐらい用意しておいた方がいいのかなと。山と水と道、温泉だけで非常に難しいかと。さらにもものづくり・くらしも1つだと厳しいかなと。うちのところは、だいたい大テーマが3つぐらいあって、その中の小テーマを1つ変えるとか、そういう形でやっていくのですが、やはり1つですべて負担するのはしにくいもので、2つぐらい小テーマを用意して、並行してやっていって2つを替えていくというように考えていったらいいんじゃないかなと思います。そうしないと、松本城はいいと思うんです。ただ松本城は中テーマがもっといっぱいあってもいいと思う、松本市だし。他は中テーマが2つぐらいずつ並行していって、1つずつ交代していくとか考えて、3つあってもいいと思う。この展示室の大きさをみればそのくらいはいけるのではないかと。大テーマがあって、中テーマが2、3あって、もう1つが替わっていくというような感じの方が分かりやすいのではないのでしょうか。

菊池：実は、説明では大テーマ全体が替わるのは年に1つ。ただ図面見ると分からないし、今の話だと、大テーマのなかの中テーマが替わるのだということになれば、確かに大テーマの展示替えではあるのですが、より正確に言えば中テーマをいじっていく更新ということですよ。上の文章の説明と図面のリンクが分からなかったということが一つありました。それから、今、原委員がおっしゃたことを踏まえて、少し表記なり考え方を整理された方がいいのかなと思いました。他にありましたら。なければ、これについては、これで展示業者に指示をだしていいのかということ、中身の問題ですね。いくつかこれまで説明を受けて、意見が出てきていますのでそれを踏まえたうえで、展示業者に指示する。ただ、大きな問題があって、中テーマがもっとあってもいいんじゃないかという意見もありましたが、その点はどうでしょうか。

原：いいのでしょうか。松本の大きな5つテーマ挙げていますよね。5つの大きな挙げたものを、どうやって説明するのか、伝えていくのかというこ

とですよ。一つをあげて伝わればいいんですが、伝わらないものもあるので幾つも用意した方がいいですよ。そうしないと本当に小学生たちがなんか、分からない。分からないというか、難しいと思うのですよね。山と水と道、温泉と言われても困る。

菊池：大テーマについては、これらの施設基本計画の中で一回決めていきますからこれはいいのではないかと。その中の中テーマなどについては、これから展示設計していく中で、さらに詰めていくことになるはずなので、そこで今のご意見を踏まえ再検討するということがいかかですか。

原：大テーマの下に、1つの中テーマでいくのかどうなのかということ、そこはもうちょっと検討してもらいたいなと。

菊池：そうですね。それはこれから、展示設計を進めていく中で十分検討し大テーマの中に中テーマが1つだけで説明が全部つくのかどうなのかということもありますから、検討していく、意見をつけていくということ。他にどうでしょうか。

後藤：8ページですけれど、上の図でいったら、一番長いところのはじからはじまで何mになるのでしょうか。一番上の近代化あたり。あまり長いと飽きてしまう。その辺りのずらずらと続くのか見てみるのか関係してくる。これ長くなりそうだよ。

原：これ、B2の方だよ。結構長いよね。

後藤：パーテーションで区切るとか、もし連続でいくとしたらちょっとね。

菊池：パーテーションで展示ケースの中は区切る。

事務局：50mくらいです。

原：それはね、なにか仕切らないとどこでもいいから、嫌になっちゃう。

菊池：展示ケースは壁付の展示ケース1台で、全部処理できるんですか。でも50mもある展示ケースの中を整理するのは大変なんじゃないか。

後藤：展示替えも大変。

菊池：その点も含めて実際の展示設計、基本設計になる時に十分検討することが必要じゃないんですかね。これはあれですよ。見る方も大変ですよ。

木下：イメージ的にこのエリアはこの展示空間として、ただどこまでどうだとしていう事は、あまり正確に反映していなくてイメージ図ということ。それと、あとすべてこれはウォールケースというつもりではなくて、こういう分担よという、確かに50m先が見えたら、「うーん」というのはあるよね、というのはあって、そこらへんではまだ手法があるのかなと思います。原先生のお話のように、実際にこうやって中を組んでいって「うーん」これ一つでもつかなという感じは、正直してこのテーマの中であるものも少なくないかなという気はします。

菊池：今のお話しの中の、原先生のご意見というのは展示設計の中でさらに検討

していく話しだと思うんですね。だから今でた意見をきちんと踏まえて展示設計、業者とのやり取りの中でより見やすい、より使いやすい展示構成を図るんだということ。

木 下：その前段の部分の変化し続ける常設展示というこの考え方について、それはどうだというご意見あれば、その部分をお聞かせいただければなど。先程、それはそうは言うが歳をとったらなかなかという色々な意見があったのはこの部分だと思うので。

原：歴史館にいる時に笹本館長が言ったのは、学問の成果をあげている、学問の進展を見直すのが博物館で、それが当たり前でそれをやっていけないといけない。劣化と両方の対応をしていけないといけない。一番大事なのは劣化で大事なんだけど、うちなんかは学問を推していてその成果が生かされてちゃんと伝わっているのかどうかを大事にしようと館長がいったんです。それで見直しをしようと。まずは塩なんかをおいて大丈夫だったら一番です【発言ママ】。長く出している資料はどんどんしまってしまう。変化っていうと、細かなものをしょっちゅう替えます。替えるようにしました。うちはとにかく替える。でも、それは見栄えはしません。それで逆になにをしたかという、それをどうやってアピールして来てもらうかということで、信毎のところに枠をもらって発表した。別の外のソフトの問題かもしれない。変化する事はいいことだと思いますね。

菊 池：変化する展示はいいと思います。ただ、誤魔化されないようにしてください、展示業者に。今おっしゃった通りで展示具を替えないと展示資料だけの入れ替えというのは結構厳しい時もあるんですね。要するに開館するときに、資料に合わせて展示具セットを作っちゃっているんですね。そうするとその資料以外の展示はまた大変になってしまう。ですから、展示資料の差し替えできない設計にされないように注意してください。変わらないと面白くないですよ。見る側は。リピーターが来ないんですよ。だから必ず変わる必要があるし、当然今でたように、笹本さんも言っていたように、学問は変わるんだ進歩する、だから何年かかっても当たり前なんだといのもあります。変わる展示は結構なあれなんです。ですから、どう替えていくかといことをツラツラ考えながらいかないと、何となく資料の差し替えでお茶を濁してしまう事になる危険性を避けなくてははいけない。

もう一つ言ってもよろしいでしょうか。実は、ずっと気になっていたのですが、松本市がこの博物館をつくって松本学の拠点になるんだと言っている訳でして、一方で文化財課でしたっけ、そこがあってそこが松本市の歴史文化基本構想をまとめているんですね。そこでまとめているのが歴史文化基本構想と博物館が進めていく松本学なり松本市の歴史

に対する認識に齟齬がないように、調整がかからないと同じ市の中で全然違う事を言っていたら困るのでこれはお互いよく情報を交換してズレが生じないようにしていただきたいなと思っています。

原：松本城管理事務所も同じで、中の計画もあって、博物館も三の丸に建つのでそこともすり合わせた方がいいんじゃないかなと思います。三の丸内でどういう博物館の役割を果たすのか、そこが納得しないといけないんじゃないかなと思います。

菊池：ということで、時間もだいぶ経ってしまいましたので、まず最初の3の展示計画については、今のような意見を踏まえて業者に指示をしてもらうということは了承ということでしょうか。

全員：了。

菊池：今までのような形で進めていただくということにしたいと思います。問題は、2の展示室および収蔵庫の配置についてなんですが、先程のA1の案とB2の案でなかなか、それから展示計画を伺ってどうあるべきかということなんですが。何かご意見ありますか、これについては。

原：正直、これで決まっているかと思った。

菊池：やはりそうなんですよね、イメージとしてはプロポーザルで出された案だとみんなそう思っちゃう時があるんですよね。という意見なんですが、博物館側の検討の結果としては、B2の案だったということなんですが、でまあ実はこの3時間も経っていない中で決めるのに辛いものもあるのですが。

事務局：とりあえず、今日の委員会・部会でご意見をいただいたのを、また博物館内部、市の内部でも協議させていただいて、またこの部会につきましては数回やらせていただきたいというのがこちらの本音でございますので。

菊池：では、結論をださなくていいということで宜しいでしょうか。

事務局：はい。今日いただいたご意見の中で、また改めて説明させていただくと。またそれをフィードバックさせていただいて、またご意見をいただくという形にさせていただいて。いずれにしても、また先程ご説明させていただきました通り、11月末が基本設計、ただ実質はこのスケジュールはタイトすぎるという事の中では、今年中までには対応を決めていきたいという中で、文化庁との協議もあるものですから、配置についてはある程度決めなくてはいけないこともありますので、そういう部分で進めていきたいと思います。今日はいただいた意見を参考に内部でつめさせていただいて、またご報告させていただくような形で進めていきたいと思います。

菊池：ということですので、結論を出す必要はないと今わかりましたので。ただですね、この案でB2の案で進めていくような感じはしますよね。そ

の時に2の検討の時に生まれたように、体験ゾーンがある。あのゾーンの説明が展示計画の説明でどうやら体験ではなく体感である。ものを削ったりするようなことはないんだということであれば、B2でもいいと思うんですが、これから展示を設計していく中であそこに実際に作業する、そういったようなことが出てくるようであれば、展示資料等に与える影響を考慮するとA1の、要するにプロポーザルで設計業者が出してきた案も、再検討の余地があると思います。まあ結論なしということですが、とりあえずそういう感じで意見もあるということだけ付けておきます。ほかにご意見ありますでしょうか。ないようなので進行を戻します。

木 下：長時間にわたってご指導、ご審議いただきまして、ありがとうございます。やはり、一番長い間博物館にありますと、いつ来ても変わらねーなという一言がくるので、うちの若い学芸員たちも本当はもっと時間があって、1つ2つずつテーマを持って検討してやってきたところもありまして。今、原先生の方からこれじゃ、やっぱ2つやっていったら、なにか変化しつつ続けるストックが無くなっちゃうという、その部分について、私どもも幾つかもう少しテーマを検討したものはあるんですが、これぞ松本っていうものを、これはあった方がいいんじゃないかというものをぜひ思いついたところで教えていただきながら、それについてまた検討して、頻繁に会議はやるのですけれど、その間またそういうことも教えていただければと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

事務局：長時間にわたり審議いただき、誠にありがとうございました。今申しあげた通り、数回この部会を実施してまいりたいので、その時に、またご指導お願いすると思いますが、どうぞ宜しくお願いします。本日は大変お疲れ様でした。次回は10月中旬に行いたいと思います。